

大燈禪の獨自性

——大燈國師百二十則を中心として——

荻 須 純 道

一

大燈國師は假名法語の中に「一千七百則の公案とて、話頭の数千七百あれども、皆彼本来の面目を、見せしめん爲なり⁽¹⁾」⁽¹⁾といい、參禪辨道に用うる公案の数が千七百則あることを示している。もともと千七百則ということは、景德傳燈錄に祖師の教が千七百十八名（機緣語句のあるもの九百七十六名、嗣承のみ明かにして機緣語句を缺くもの七百四十二名）あることから出た數であるが、後年崇傳が起草した大德・妙心兩寺の法度には「參禪修行は善知識に就き、三十年綿密の工夫を費し、千七百則の話頭了畢の上云云」とあり、澤庵等が幕府に拮抗し、古來參禪に用いた公案は三百則のみであるとなし、元和令の法度を批判論駁したいわゆる紫衣事件を惹起したことは有名である。すなわち澤庵時代に用いた參禪の話頭は三百則であるとされている。

大燈國師年譜によれば、大燈が高峰顯日のもとを去り、鎌倉から上洛して大應國師に參じ、朝參暮請孜孜として怠ら

ず、いわゆる「脇席につけざる」眞劍な禪道修行の頃

宗師語脈、差別諸訛異旨、參究咨決者、殆乎二百則、應稱賞曰、爾是天然衲子也⁽⁸⁾

と大應は稱歎したが、ここに二百則という数が擧げられている。しかし大燈が五條橋邊に韜晦する頃、景德傳燈錄三十卷を僅か四十日で筆寫し、その原本は大德寺に襲藏されるのであるが、その末尾に自ら跋文を誌し

此是千聖靈機、列祖命脈也、遠超三夷希之境、逸出三至理之鄉、潢兮薄兮不可知、不可覺、矧是討三毫跡、何異傷三其軀、四十日之中、投筆三十卷、紘紘形勢、切難爲三郢人耳、正和二祀、五月廿三、野僧妙超寫⁽⁹⁾

とされ純粹な謙虛な氣持で誌し大燈が傳燈錄所載の先哲の機緣語句をたずね、千七百餘人の列祖の命脈を究めたのであることはいうまでもない。しかし公案として學徒に提示されたものは、いわゆる千七百則ではなく、遙かに少い数が用いられたと思われる。

去る昭和十九年（一九四四）鈴木大拙博士は大東出版社から、大燈國師百二十則なるものを出版された。その原本は積翠居士石井光雄氏の所藏にかかるもので、その原本のままを石版印刷にし、それに博士の解題竝に大燈國師行狀と、博士の執筆になる「日本思想史の一斷面—大燈百二十則に因みて著語一般のもつ意味—」なる論文が添えられている。

解題によれば、原本は縦2.55cm 横1.93cm の袋綴本で、表紙を含めて一卷二十二紙であり、扉一紙、目錄二紙、本文十六紙、それに卷末の一紙は原本のままで、表紙は後人の改めたものであり、表紙の中央に「正宗禪師筆跡」とし、その左側に「大燈國師百二十則」とされており、扉の「百二十則」と題されたものや、卷末の一紙に「雲門關」と題して、大燈國師投機偈二首が書かれているのは正宗禪師（清庵宗胃）の筆跡であり、そして奥書には

永正十六年己卯三月一日書之 宗意

清庵和尚筆跡 諱意後改冒

瑞堂紹繡證焉

四
 四

とあるが、第一行は正宗禪師宗意の筆跡であり、第二、第三行は紹繡の筆跡であるとされている。

すなわち大燈國師の用いられた公案が門下法孫によつて傳承されたものを、正宗禪師宗意によつて書きとめられたものであると思われる。宗意はのち宗胃と改められたが、清庵と稱し啞羊子または一畝子とも號した。小溪宗怱（大徳八十六世）の法嗣で、天文六年（一五三七）には大徳寺に奉勅入寺した。そしてまた天文年中に大徳寺塔頭正受庵を開創し、永祿五年（一五六二）世壽七十九歳で示寂した人で、正親天皇から廣徳正宗禪師と勅諡されている。この宗胃によつて書きとめられたものを、凡そ百五十年後、江戸初期に出た瑞堂紹繡（大徳二百十二世、正受庵七世）によつて、この書が清庵宗胃の筆跡であることを證せられたものである。⁽⁴⁾ さてこの大燈百二十則とは次のようなものであるが、目次と内容の番號が違うので、いまは内容の番號にしたがうことにする。

(一)	牛窓機話	(二)	翠岩眉毛	(三)	死人無數	(四)	香嚴樹上
(五)	乾峰法身	(六)	拘子無佛性	(七)	有句無句	(八)	好雪片々
(九)	萬法不侶	(一〇)	不見一法	(一一)	會如來禪	(一二)	靈雲桃花
(一三)	黃巢后劍	(一四)	頼懶不知	(一五)	金牛喫飯	(一六)	一物不將來
(一七)	至道無難	(一八)	湖南報慈	(一九)	松源三轉	(二〇)	黃龍三關
(二一)	兜率三語	(二二)	火焰轉法輪	(二三)	黃檗打臨濟	(二四)	赤肉團話
(二五)	定擒欽山	(二六)	論劫在途	(二七)	孤峯出身	(二八)	傳語徳山
(二九)	水牯牛話	(三〇)	龍不見柱	(三一)	萬頃荒田	(三二)	撥退果卓
(三三)	黃昏脫襪	(三四)	庭前柏樹	(三五)	虛堂拄杖	(三六)	是凡是聖

- | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|---------|-------|--------|-------|--------------------------------|
| (三七) | 百丈再參 | (三六) | 出不出話 | (三九) | 寒山茄串 | (四〇) | 陞座白槌 <small>佛與文殊</small> |
| (四一) | 拈花微笑 | (四三) | 堂僧看經 | (四二) | 良遂參麻谷 | (四四) | 丹霞燒佛 |
| (四四) | 楊岐問慈明 | (四六) | 雪竇示衆 | (四七) | 六祖因僧問 | (四八) | 趙州因僧問 <small>喫粥了</small> |
| (四九) | 法燈示衆 | (五〇) | 藥山久不上堂 | (五一) | 南泉住庵 | (五二) | 洞山寒暑到來 |
| (五三) | 楊岐薄福 | (五四) | 雪竇二龍 | (五五) | 僧問趙州四門 | (五六) | 法眼慧超 |
| (五七) | 德山托鉢 | (五八) | 香林坐久 | (五九) | 肅宗門忠 | (六〇) | 德山小參不答話 |
| (六一) | 法眼拈云 | (六二) | 圓明云大小德山 | (六三) | 雪竇云二老宿 | (六四) | 俱胝一指 |
| (六五) | 南泉貓兒 | (六六) | 趙州草鞋 | (六七) | 梁武達磨 | (六八) | 馬祖日面月面 <small>(雪竇五帝三皇)</small> |
| (六九) | 女子出定 | (七〇) | 清淨行者 | (七一) | 鐵磨到滄山 | (七二) | 僧問百丈 |
| (七三) | 智門蓮花 | (七四) | 保福遊山 | (七五) | 雪峰鼈鼻蛇 | (七六) | 龍牙翠微 |
| (七七) | 蓮花拄杖 | (七八) | 雲門體露 | (七九) | 南泉參涅槃 | (八〇) | 趙州蘿蔔 |
| (八一) | 雲門 普 | (八二) | 雲門 露 | (八三) | 那吒折骨 | (八四) | 竺維木杓 |
| (八五) | 花藥欄 | (八六) | 慈明一畝三蛇 | (八七) | 雲門塵々三昧 | (八八) | 洞山麻三斤 |
| (八九) | 雲門屎橛 | (九〇) | 趙州三轉語 | (九一) | 子胡牌 | (九二) | 雪峰輓毯 |
| (九三) | 僧問慈明佛 | (九四) | 禾粟豆 | (九五) | 法眼丙丁童子 | (九六) | 雲門對一說 |
| (九七) | 倒一說 | (九八) | 雲門胡餅 | (九九) | 林際四料簡 | (一〇〇) | 四寶主 |
| (一〇一) | 三 玄 | (一〇二) | 三 要 | (一〇三) | 雲門三句 | (一〇四) | 雲門鑑嘆 |

(一五) 馬祖陞堂	(一六) 大隋一龜	(一七) 麻谷持錫	(一八) 大隋劫火
(一九) 慈明冬至	(二〇) 香林證龜	(二一) 古人頌風幡	(二二) 世尊涅槃
(二三) 仰山五老峰	(二四) 趙州二時	(二五) 門竿例却	(二六) 兩處不答
(二七) 睦州西峰	(二八) 死蛇籃子	(二九) 夜明符天曉	(三〇) 臺山婆子
(外) 馬師翫月	(外) 大川蜘蛛頌	宗峰三轉語	

この書の目録に挙げられた項目では「馬師翫月」を以て百二十則として數えているのであるが、その内容においては「馬師翫月」「大川蜘蛛」とを番外とし、そしてさらに「宗峰三轉」語を附加したことになっている。このことを鈴木博士は「内容と目録との喰違ひは、目録に『雲寶五帝三皇』を別項として書き入れたからのことである。これは獨立のものではなくて、『馬祖日月面』の一部である。正宗禪師の書き誤りを、後に誰かがそのままにして、各項を勘定して番號を朱書したところから、目録と内容との數え方が違つて來たのである」としている。⁽⁵⁾ところで、目録においては「三玄三要」を一項目としているのであるが、内容においては「三玄」と「三要」とを分けて別の則としている。それで「雲寶五帝三皇」を別則として數えなくても、「三玄」と「三要」とを分けて數えれば、依然として、「馬師翫月」「大川蜘蛛」「宗峰三轉語」の三則は番外や附加したものであるということになるが、しかし(六〇)「徳山小參不答話」(六二)「法眼拈云」(六三)「圓明云大小徳山」(六三)「雪寶云二老宿」の四則は關連性をもつたものとみるならば、三則減ずることになるから「馬師翫月」「大川蜘蛛」「宗峰三轉語」は附加されたものではなく、大燈國師百二十則の中に數えられることになる。このように考察すると、鈴木博士がいうように「此書は元來『百二十則』として傳えられたものを、正宗禪師に至りて二則を新たに見付けて附加したものの如くである。而して又更に『大燈三轉語』を添へたものであろう」とはいえなくなる。最後の「宗峰三轉語」まで數えて、表題通り百二十則であらうと思われる。そしてまた末

尾に「百二十則開山下語竝大應國師一撈」とあり、各則の語に大燈の下語があり、大應國師の一撈が、(一)牛窓機話、(八)好雪片々、(九)萬法不侶、(四)拈花微笑、(二)慈明冬至等に見うけられる。

この原本は大徳寺に傳わり、徹翁一派の禪僧によつて繼承されたものを、正受庵の清庵宗胃(正宗禪師)によつて書寫されたものであるが、これと同じような内容のものが妙心寺の關山派においても傳つたものである。すなわち關山三世の法孫無因宗因の法嗣に春夫宗宿があり、春夫によつて關山の禪は五山に流れた。春夫宗宿、溫中宗純、明室宗杲と嗣承し、明室剃度の弟子に三江紹益がある。三江は明室の没後、妙心寺の南北玄興につき修造して印可され、のち建仁寺の長老となり元和元年(一六二二)高臺寺の開山として拜請された人である。この三江紹益の傳寫したものにまた「大燈百二十則」なるものがある。これは清庵の傳寫した「大燈國師百二十則」とは略々内容を同じくするものであるが、兩者を比較すると、三江紹益の「大燈百二十則」には「法眼拈云」「圓明云大小徳山」「雪竇云二老宿」等の項目はない。これらは「徳山小參不答話」の則に關連されたものとして、この則に包含されている。この「法眼拈云」「圓明云大小徳山」「雪竇云二老宿」の三項目と、さきという「雪竇五帝三皇」は「馬祖日面目面」に含まるもので、則として擧げていないから、四項目減することになるが、三江の「大燈百二十則」の方でも、「三玄三要」を二則に分け、「臨濟三玄」「臨濟三要」としており、したがつて「宗峰三轉語」まで數えて百二十則としている。であるから清庵宗胃(正宗禪師)の傳寫した「大燈國師百二十則」も「馬師翫月」「大川蜘蛛頌」「宗峰三轉語」を含めて百二十則であり、番外や追加されたものではないと思われる。したがつて大燈の室内は大體において古則百二十則を内容とするものと考えられる。

二

いまこの大燈國師百二十則の各則がいかなる經典祖錄が依用されて成立したものであるかを検討することとしよう。
しかしいまここにおいては各則の出典とその則が拈提されている語錄について挙げてみることにする。

一、牛窓櫃話

五祖演云、牛過窓櫃、頭角四蹄都出、尾巴因甚出不得

〔出典〕密庵錄小參（大正藏四七ノ九七四B）無門關第三十八則、禪宗頌古聯珠通集第三十九（縮藏騰三ノ百十一左）、大燈錄卷上

二、翠巖眉毛

翠巖夏末示衆云、一夏已來與兄弟東說西話、看翠巖有眉毛麼、保福云、作賊人虛、長慶云、生也、雲門云、關

〔出典〕雲門廣錄卷中室中語要（縮藏騰五ノ三十右）、碧巖集第八則、虛堂錄卷五（頌古）、大應錄（崇福寺語錄）

三、死人無數

雲門云、平地上死人無數、出得荊棘林始是好手、時有僧出云、恁麼則堂中第一座有長處、門云、蘇嚧々々

〔出典〕雲門廣錄卷中室中語要（縮藏騰五ノ二十八右）、法演禪師語錄卷上（大正藏四七ノ六五三B）、虛堂錄卷三（育王語錄）、同卷五（頌古）、黃龍錄（大正藏四七ノ六三一A）

四、香巖上樹

香巖示衆云、如人上樹、口啣樹枝、脚不踏樹枝、手不攀樹枝、樹下忽有人問祖師西來意、不答違他所問、答即喪身失命、如何卽是、虎頭上座出衆云、樹上且置樹下一句道將來、香巖呵々大笑、雪竇云、樹上易道樹下難道、老僧上樹一句

道將來

〔出典〕無門關第五則、景德傳燈錄十一（香嚴の章）、汾陽錄卷中（大正藏四七ノ六一三B）、明覺錄卷三（大正藏四七ノ六八五C）、宏智廣錄卷三（大正藏四八ノ二八A）

五、乾峯法身

乾峯示衆云、法身有二種光三種病、一々透得歸家須穩坐、雲門出衆云、庵內人爲甚不見庵外事、峯呵呵大笑、門云、猶是學人疑處在、峯云、爾是什麼心行、門云、要和尙相委悉、峯云、爾與麼可解穩坐地、門云、諾々

〔出典〕雲門廣錄卷下（縮藏曉五ノ四三右）、虛堂錄卷五（頌古）、大應錄（建長寺語錄）、宏智廣錄卷三（大正藏四八ノ二九A）、縱容錄第十一則（大正藏四八ノ二三四A）

六、狗子無佛性

趙州因僧問、狗子還有佛性也無、州云、無、僧云、一切蠢動含靈皆有佛性、爲甚狗子還無佛性、州云、爲伊有業識性

〔出典〕無門關第一則、趙州錄（縮藏曉五ノ一三右）、法演禪師語錄卷下（大正藏四七ノ六六五B）、同（大正藏四七ノ六六六偈頌）、大惠頌古第三十二則

七、有句無句

潯山大安禪師云、有句無句如藤倚樹、疎山云、樹倒藤枯句歸何處、潯山放下泥盤呵呵大笑、疎山云、某申不遠千里特爲箇事來、莫欺學人、潯山喚侍者與草鞋錢去、佗後有獨眼龍與僞說破、後到明招舉前話、招云、潯山頭正尾正只是未逢知音、疎山云、忽然樹倒藤枯句歸何處、招云、更教潯山笑轉新、疎山於言下大悟云、潯山元來笑中有刀

〔出典〕禪宗頌古聯珠通集卷第三十（縮藏曉三ノ六五左）、虛堂錄卷三（育王語錄）、同卷四（普說）、五燈會元卷十三（疎山の章）

八、好雪片々

龐居士辭藥山、山命十人禪客相送到門首、士指空中雪云、好雪片々不落別處、時有全禪客云、落在甚處、士打一掌、全云、居士不得早々、士云、爾與麼稱禪客。國老子不許爾在、全云、居士又作麼生、士又打一掌云、眼見如盲口說如啞、雪寶別云、初問處但握雪團便打

註 原文には「擡」を「擡」とあるが、いまは碧巖集によつて改む。

〔出典〕碧巖集第四十二則、虛堂錄卷二（寶林語錄）

九、萬法不侶

馬祖因龐居士問、不與萬法爲侶者是什麼人、祖云、待爾一口吸盡西江水便向爾道

〔出典〕碧巖集第四十二則（本則評唱）、黃梅東山演和尚語錄（縮藏臘五ノ六二左）、法演禪師語錄卷中（大正藏四七ノ五六七A）、虛堂錄卷二（寶林語錄）、同卷三（徑山語錄）、同七卷（偈頌）、同八卷（淨慈後錄）、馬祖錄（縮藏臘四ノ五九右）、大惠頌古（大正藏四七ノ八五五A）、禪宗頌古聯珠通集第十四（縮藏臘二ノ九六右）、景德傳燈錄卷八（龐居士の章）

一〇、不見一法

玄沙問鏡清、不見一法是大過患、清指露柱云、莫是不見者箇法麼、沙云、浙中清水白米從爾喫佛法未

〔出典〕明覺錄（大正藏四七ノ六九一C）、虛堂錄卷一（報恩語錄）、同卷五（頌古）、景德傳燈錄卷十八（玄沙の章）、宏智廣錄第三（大正藏四八ノ二八B）、大惠頌古第七十六則、禪宗頌古聯珠通集第三十一（縮藏臘三ノ七三右）

一一、會如來禪

仰山謂香嚴云、如來禪許師兄會、祖師禪未夢見在

〔出典〕景德傳燈錄卷十一（仰山の章）、虛堂錄卷二（寶林語錄）

一二、靈雲桃花

靈雲見桃花悟道、玄沙云、諦當甚諦當、敢保老兄未徹在、雲門云、說甚徹不徹更參三十年、

(出典) 景德傳燈錄卷十一(靈雲の章)、虛堂錄卷一(報恩語錄)、同卷二、(寶林語錄)、大惠頌古第七十五則(大正藏四七ノ八五三C)、汾陽錄卷中(大正藏四八ノ六〇九A)

一三、黃巢後劍

岩頭問僧從甚處來、僧云西京、頭云、黃巢過後還收得劍麼、僧云、收得、頭引頸云因、僧云、師頭落也、頭呵々大笑、僧後到雪峰、峰問什麼處來、僧云岩頭來、峰云、有什麼言句、僧舉前話、雪峰打三十棒趕出

(出典) 碧巖集第六十六則、虛堂錄卷一(延福語錄)、景德傳燈錄卷十六(岩頭の章)

一四、賴爾不知

長髭廊見僧問訊云、歩々は汝證明處還知麼、僧云不知、髭云、賴爾不知、若知我堪作甚麼、僧禮拜

(出典) 虛堂錄卷一(顯孝語錄)

一五、金牛喫飯

金牛每日齋時自將飯於僧堂作舞、呵々大笑云、菩薩子喫飯來

(出典) 碧巖集第七十四則、虛堂錄卷一(顯孝語錄)、景德傳燈錄卷八(金牛の章)

一六、一物不將來

趙州因僧問、一物不將來時如何、州云、放下着、僧云、既是不將來放下箇甚麼、州云、放不下擔取

(出典) 趙州錄(縮藏臘五ノ一七右)、虛堂錄卷二(寶林語錄)、黃龍錄(大正藏四七ノ六三二A)、宏智錄卷二(大正藏四八ノ二三C)

一七、至道無難

趙州因僧問、至道無難唯嫌揀擇、是時人窠窟否、州云、曾有問我直得五年分疎不下

〔出典〕碧巖集五十八則、趙州錄（縮藏騰五ノ一二右）、雲門廣錄卷中（垂示代語）、大燈錄（大德寺語錄）、同（參詳語要）

一八、湖南報慈

雲門因洞山到、問云、近離甚處、山云、查渡、門云、夏在甚處、山云、湖南報慈、門云、幾時離彼、八月二十五、門云、放爾三頓棒、山次日問云、昨日蒙和尚放三頓棒、不知過在何處、門云、飯袋子江西湖南便與麼去、山於言下有省

〔出典〕無門關第十五則（洞山三頓）、明覺錄卷三（大正藏四七ノ六八六C）、虛堂錄卷一（報恩語錄）、景德傳燈錄卷二十
三（洞山初の章）、五燈會元卷十五（洞山守初の章）

一九、松源三轉

松源三轉語、大力量人因甚擡脚不起、開口因甚不在舌頭上、明眼衲僧因甚脚跟下紅絲線不絕

〔出典〕虛堂錄卷二（寶林語錄）、同卷五（頌古）、大應錄（崇福寺語錄）、大燈錄（大德寺後錄）、無門關第二十則（大力量人）

二〇、黃龍三關

黃龍三關、我手何似佛手、我脚何似驢脚、如何是汝生緣處

〔出典〕無門關附則、虛堂錄卷四（普說）、大應錄（建長寺語錄）、續傳燈錄卷七（大正藏五一ノ五〇六C）

二一、兜率三關

兜率三轉語、撥草參玄但圖見性、即今上人性在甚處、既得見性脫生死、眼光落地時作麼生脫、既脫生死知去處、四大分離時向何處去

〔出典〕無門關第四十七則、大應錄（崇福寺語錄）

二二、火焰轉法輪

雪峰云、三世諸佛向火焰上轉大法輪、雲門云、火焰爲三世諸佛說法、三世諸佛立地聽

〔出典〕雲門廣錄卷中（室中語要）、虛堂錄卷五（頌古）、五燈會元卷十五（雲門の章）

二三、黃檗打臨濟

黃檗六十棒打林際

〔出典〕臨濟錄（行錄第二）、虛堂錄卷一（延福語錄）、同卷五（頌古）、景德傳燈錄卷十二（臨濟の章）

二四、赤肉團話

林際示衆、赤肉團上有一無位真人、常在爾諸人面門出入、未證據者看々、時有僧問云、如何是無位真人、臨濟下繩床擒住云、道々、僧擬議、濟托開云、無位真人是什麼乾屎橛

〔出典〕臨濟錄（上堂）、明覺錄卷二（大正藏卷四七ノ六七六C）、虛堂錄卷一（報恩語錄）、大應錄（崇福寺語錄）、大燈錄（大德寺語錄）、同（參詳語要）、景德傳燈錄卷十二（臨濟の章）

二五、定擒欽山

岩頭雪峰欽山共去欲拜臨濟、路逢定上座云云、欽山云、何不道非無位真人、定上座擒住欽山云、無位真人與非無位真人相去多少、速道速道欽山色動不能對、岩頭雪峰勸解定上座云、若不看者兩凍臍面、殺殺者屎床鬼子

〔出典〕碧巖第三十二則ノ類則、虛堂錄卷一（報恩寺語錄）

二六、論劫在途

臨濟上堂云、有一人論劫在途中不離家舍、有一人離家舍不在途中、那箇合受人天供養

(出典) 臨濟錄(上堂第八)、虛堂錄卷二(寶林語錄)、大燈錄(拈古)

二七、孤峰出身

臨濟上堂云、一人在孤峰頂上無出身路、一人在十字街頭無向背、且道、那箇在前、那箇在後、不作維摩詰、不作傳大士

(出典) 臨濟錄(上堂第七)、大燈錄(大德寺後錄、拈古)

二八、傳語德山

林際令侍者傳語德山、侍者云、德山要打人、濟云、爾去待伊拈棒接住與一送管取不打爾、侍者依所教果然不打、歸舉似臨濟、濟云、我從來疑着者漢

(出典) 臨濟錄(勘辨第十二)、虛堂錄卷一(報恩語錄)、景德傳燈錄卷十五(德山の章)、大燈錄(拈古)

二九、水牯牛話

南泉因趙州問、知有底人向甚麼去、泉云、山前檀越家作一頭水牯牛去、州云、謝師答話、泉云、昨夜三更月到窓

(出典) 趙州真際禪師語錄(縮藏牘五ノ一〇左)、虛堂錄卷一(報恩語錄)、景德傳燈錄卷八(南泉の章)

三〇、龍不見柱

龍齋示衆云、是柱不見柱、是非已去了、是非裏薦取

(出典) 禪宗頌古聯珠通集第三十六(縮藏牘三ノ九八右)、虛堂錄卷四(雙林普說)、同卷五(頌古)

三一、萬頃荒田

香林因僧問、萬頃荒田是誰爲主、林云、看看臘月盡

(出典) 禪宗頌古聯珠通集第三十五(縮藏牘三ノ九三右)、虛堂錄卷一(報恩語錄)、大燈錄(大德寺語錄、同後錄)

三二、掇退果卓

洞山冬夜喫菓子次問泰首座、有一物黑似漆、常在動用在用中收不得、過在甚處、泰首座云、過動用中、山令侍者掇退果卓

(出典) 禪宗頌古聯珠通集第二十四(縮藏臘三ノ三八右)、虛堂錄卷一(報恩語錄)、同卷三(徑山語錄)、景德傳燈錄卷十五(洞山良价の章)、五燈會元卷十三(洞山良价の章)

三三、黃昏脫襪

舜老夫云、黃昏脫籬打睡、晨朝起來旋繫行纏、夜來風吹籬倒、知事普請、奴子劈襪縛起

(出典) 虛堂錄卷一(報恩語錄)、五燈會元卷十五(雲居曉舜の章)

三四、庭前栢樹

僧問趙州、如何是祖師西來意、州云庭前栢樹子、覺鐵背到法眼、眼問、趙州有箇庭前栢樹子話、是也無、背云、先師無此語、莫謗先師、眼云、真師子兒能師子吼

(出典) 無門關第三十七則、趙州錄(縮藏臘五ノ一〇左)、虛堂錄卷一(顯孝語錄)、同卷五(頌古)、大應錄(法語)、汾陽錄卷中(大正藏四七ノ六一〇C)、楊岐錄(大正藏四七ノ六四五B)、五燈會元卷四(趙州の章)

三四、虛堂拄杖

虛堂和尚云、拄杖子尋常口吧々地道、我能縱能奪能殺能活、及問他遠法師因甚不過虎溪、便道不得、且道病在那裏

(出典) 虛堂錄卷一(報恩語錄)

三六、是凡是聖

岩頭見德山便問、是凡是聖、山便喝、頭便禮拜、後來洞山問云、當時若不是藏公、也大難承當、岩頭問云、洞山老漢不

識好惡

〔出典〕 虛堂錄卷三（育王語錄）、景德傳燈錄卷十六（巖頭の章）、大燈錄（大德寺後錄）

三七、百丈再參

馬祖因百丈再參、祖次目視禪床角拂子、丈云、卽此用離此用、祖云、爾向後開兩片皮、將何爲人、丈豎起拂子、祖云、卽此用離此用、丈掛拂子舊處、祖振威一喝、丈三日耳聾

〔出典〕 百丈錄（縮藏臘四ノ五九左）、黃檗錄（縮藏臘四ノ六六右）、虛堂錄卷二（寶林語錄）、同卷五（頌古）、景德傳燈錄卷六（百丈の章）、五燈會元卷三（百丈の章）

三八、出不出話

三聖道、我逢人則出、出則不爲人、興化道、我逢人則不出、出則爲人

〔出典〕 虛堂錄卷一（興聖語錄、報恩語錄）、法演禪師語錄（大正藏四七ノ六六五B）

三九、寒山茄串

寒山子因衆僧炙茄子次、將茄串向一僧背上打、僧回首、寒山呈起茄串云、是甚麼、僧云、風顛漢、寒山向傍僧云、爾道者僧費多少鹽醬

〔出典〕 虛堂錄卷一（報恩語錄）、五燈會元卷二（天台山寒山子の章）

四〇、陞座白槌

世尊一日陞座、衆集定、文殊白槌云、諦觀法王法、法王法如是、世尊便下座、

〔出典〕 碧巖集第九十二則（世尊陞座）、虛堂錄卷一（報恩語錄）、禪宗頌古聯珠通集（縮藏臘二ノ四七左）、大燈錄（大德寺語錄）

四一、拈花微笑

世尊拈花、僧問如何是正法眼藏、僧問有分付耶無分付耶、師云、承虛接響、僧云、只即今日暖風和、百花競開、向何處見世尊、師云、當面蹉過、僧云、靈山一會儼然未散、響、師云、見得一半、僧禮拜、迦葉微笑

〔出典〕無門關第六則、虛堂錄卷九（徑山後錄）、五燈會元卷一（世尊の章）、大應錄（崇福寺語錄）、大燈錄（大德寺語錄）

四二、堂僧看經

王常侍訪臨濟、問云、者一堂僧還看經否、濟云、不看經、侍又問、還習禪麼、濟云、不習禪、侍云、經不看禪不習箇作甚麼、濟云、總教伊成佛作祖去、侍云、金屑雖貴落眼成翳

〔出典〕臨濟錄（勘辨十二）、虛堂錄卷一（報恩語錄）、同卷三（徑山語錄）

四三、良遂參麻谷

良遂座主參麻谷、谷見來携鋤去鋤草、次日又來、谷便閉却門、良遂因此契悟、乃云、和尚莫謾良遂好、若不來見和尚、幾被十二分教誤却一生、遂將房計賣却作一罷講齋、示衆云、如何是良遂知處、僧出便禮拜退、又問、如何是諸人不知處

〔出典〕雲門廣錄卷中（室中語要）、虛堂錄卷一（顯孝語錄）、同卷六（佛祖讚）、五燈會元卷四（良遂の章）

四、丹霞燒佛

丹霞燒木佛、院主看眉鬚墮落

〔出典〕虛堂錄卷一（報恩語錄）、景德傳燈錄卷十四（丹霞の章）、五燈會元卷五（丹霞の章）、大燈錄（大德寺語錄）

四五、楊岐問慈明

楊岐問慈明云、幽鳥語喃喃々辭、雲入亂峯時如何、明云、我行荒草裏、汝又入深村、岐云、官不容針、更惜一問得麼、明便喝、岐又喝、明連喝兩喝、岐禮拜

〔出典〕 禪宗頌古聯珠通集第三十九（縮藏臘三ノ一〇九左）、虛堂錄卷一（報恩語錄）、五燈會元卷十九（楊岐方會の章）

四六、雪竇示衆

雪竇示衆、春山疊亂青、春水漾虛碧、寥々天地間、獨立望何極、虛堂拈云、乳峯年老思鄉、東望西望

〔出典〕 明覺禪師語錄第二（大正藏四七ノ六七九C）、虛堂錄卷一（興聖語錄）、續傳燈錄卷二（雪竇の章）

四七、六祖因僧問

六祖因僧問、黃梅意旨是什麼人得、祖云、會佛法人得、僧云、和尚還得否、祖云、不得、僧云、爲甚不得、祖云、我不會佛法、師問云、爾意作麼生、答云、大湖三萬六十頃、月在波心說向誰

〔出典〕 虛堂錄卷一（報恩語錄）、法演禪師語錄（大正藏四七ノ六五〇C）

四八、趙州因僧問

趙州因僧問、學人乍入叢林乞師指示、州云、喫粥了也未、僧云、喫粥了也、州云、洗鉢盂去、僧有省

〔出典〕 無門關第七則（趙州洗鉢）、趙州錄（縮藏臘五ノ一五左）、雲門廣錄卷中（室中語要）、景德傳燈錄卷十（趙州の章）

大燈錄（參詳語要）

四九、法燈示衆

法燈示衆云、本欲深藏岩壑隱遁過時、爭奈清涼老人有未了公案、法燈便打云、祖稱不了殃及兒孫

〔出典〕 虛堂錄卷一（報恩語錄）、五燈會元卷十（金陵清涼泰欽法燈禪師の章）、宏智廣錄卷三（大正藏四八ノ二八A）

五〇、藥山久不上堂

知事云、大衆久思和尚示誨、山云、打鐘着、衆方集山便掩却門、知事云、既許大衆上堂、爲甚一言不施、山云、經有經師論有論師、爭怪得老僧

〔出典〕景德傳燈錄卷十四（藥山の章）、禪宗頌古聯珠通集第十四（縮藏臘二ノ九八左）、虛堂錄卷一（報恩語錄）

五一、南泉住庵

南泉住庵時一僧到、泉云、我上山作務、齋時做飯喫了送一分來、其僧飯了將家事一時打碎就床上臥、泉伺久不來遂歸見僧臥泉亦臥、僧便起去、泉住山後云、我往年住庵時、有箇靈利道者、至今不見

〔出典〕南泉普願禪師語要（縮藏臘五ノ四左）、禪宗頌古聯珠通集第十一（縮藏臘二ノ八四右）、虛堂錄卷一（報恩語錄）、同卷五（古）、景德傳燈錄卷八（南泉の章）

五二、洞山寒暑到來

洞山因僧問、寒暑到來時如何迴避、山云、何不向無寒暑處去、僧云、如何是無寒暑處、山云、寒時寒殺闍梨、熱時熱殺闍梨

〔出典〕洞山良价禪師語錄（大正藏四七ノ五二三C）、碧巖集第四十三則、虛堂錄卷一（報恩語錄）、同卷二（寶林語錄）、大應錄（興德寺語錄）、大燈錄（大德寺語錄、同後錄）

五三、楊岐薄福

楊岐示衆云、薄福住楊岐、年來氣力衰、寒風凋敗葉、猶喜故人歸、拈起死柴頭且向無烟火

〔出典〕楊岐錄（縮藏臘五ノ四五左）、虛堂錄卷一（興聖語錄）

五四、雪竇二龍

雪竇示衆云、喻若二龍爭珠有爪牙者不得、既有爪牙者爲什麼不得、請各下一點語看

〔出典〕明覺禪師語錄卷二（大正藏四七ノ六八二A）、大燈錄（參詳語要）、同（拈古）

五五、僧問趙州四門

僧問趙州、如何是趙州、州云、東門西門南門北門、僧云、不問這箇門、州云、爾問那箇趙州

〔出典〕碧巖集第九則（趙州四門）、趙州錄（縮藏臘五ノ一二右）、大燈禪（大德寺語錄）、同（後錄）

五六、法眼惠超

法眼因惠超問、惠超咨和尚如何是佛、眼云、汝是惠超、僧便悟去

註 原本「佛」の字なし、いまは碧巖集によつて補う。

〔出典〕碧巖集第七則（慧超問佛）

五七、德山托鉢

德山一日齋晚老子托鉢自方丈下來、時雪峯爲飯頭見云、鼓未響鐘未鳴、老子托鉢向什麼處去、德山低頭歸方丈、岩頭云、德山老漢未曾末後句在、山云、爾不肯老僧那、岩頭密啓其意、山次日上堂與尋常不同、頭於僧堂前撫掌云、且喜老僧會末語句、雖然如是只得三年活、德山果三年遷化

〔出典〕無門關第十三則、景德傳燈錄卷十六（巖頭の章）、虛堂錄卷二（黃林語錄）、同卷五（頌古）、大惠頌古第四十一則、大燈錄（大德寺語錄）

五八、香林坐久

香林因僧問、九年面壁意旨如何、林云、坐久成勞

〔出典〕碧巖集第十七則（本則評唱）、大應錄（興德寺語錄）、景德傳燈錄卷二十二（香林的章）

五九、肅宗問忠

肅宗皇帝問忠國師、百年後所須何物、國師云、爲老僧造箇無縫塔、帝云請師塔樣、國師良久云、會麼、帝不會、國師云、吾有付法弟子耽源、却諳此事、請詔問之、國師遷化後、帝詔耽源問此意如何、源云、湘之南潭之北、雪竇云、獨掌

不浪鳴、中有黃金充一國、雪寶云、山影拄杖子、無影樹下合同船、雪寶云、海晏河清、琉璃殿上無知識、雪寶云、拈了也

〔出典〕碧巖集第十八則（國師塔樣）、法演禪師語錄卷中（大正藏四七ノ六五八B）、黃梅東山演和尚語錄（縮藏臘五ノ六二左）、虛堂錄卷二（寶林語錄）、景德傳燈錄卷五（慧忠國師の章）、大燈錄（參詳語要）

六〇、德山小參不答話

德山小參云、今夜小參不答話、問話者三十棒、時有僧出禮拜、山便打、僧云、某甲話未問、山云、爾是甚處人、僧云、新羅人、山云、未跨船舷好與三十棒

六一、法眼拈云

法眼拈云、大小德山話作兩橛

六二、圓明云大小德山

圓明云、大小德山龍頭蛇尾

六三、雪寶云二老宿

雪寶云、二老宿雖善裁長補短捨重從輕、要見德山未可、何故德山大似握閫外威權在、諸人要識新羅僧麼、只是撞着露柱底箇瞎漢

註 六一（法眼拈云） 六二（圓明云大小德山） 六三（雪寶云二老宿）の三則は、六〇（德山小參不答話）に關連した則であり、葛藤集にも「德山行棒」として一則にしているように、頌古聯珠通集や明覺錄も同じように德山小參不答話の中に收められている。

〔出典〕禪宗頌古聯珠通集第二十三（縮藏臘三ノ三五右）、明覺錄三（大正藏四七ノ六八五B）、虛堂錄卷一（報恩語錄）、

同卷三（栢巖語錄、徑山語錄）

六四、俱胝一指

俱胝和尚豎一指

（出典）碧巖集第十九則、大應錄（法語）、景德傳燈錄卷十一（俱胝の章）

六五、南泉猫兒

南泉因兩堂首座爭猫兒、泉云、道得卽不斬、兩堂無語、泉遂斬之

（出典）碧巖集第六十三則、無門關第十四則、禪宗頌古聯珠通集十一（縮藏版二ノ八二左）、趙州錄（縮藏版五ノ一〇左）

汾陽錄（大正藏四七ノ六一〇B）、虛堂錄卷二（寶林語錄）、景德傳燈錄卷八（南泉の章）、大燈錄（頌古）

六六、趙州草鞋

趙州從外歸、泉舉前話、泉云、子若在救得猫兒

（出典）碧巖集第六十四則

註 無門關にては、南泉斬猫として南泉猫兒と趙州草鞋とを一則としているが、この大燈國師百二十則では碧巖集に重点をおいて二則としている。

六七、梁武達磨

梁武帝問達磨大師、如何是聖諦第一義、磨云、廓然無聖、帝云、對朕者誰、磨云、不識

（出典）碧巖集第一則、虛堂錄卷五（頌古）、大應錄（頌古）、大燈錄（頌古）、景德傳燈錄卷三（菩提達磨の章）

六八、馬祖日面月面

馬祖因院主問、和尚近日尊候如何、祖云、日面佛月面佛、雪竇云、五帝三皇是何物

〔出典〕碧巖集第三則、馬祖錄（縮藏騰四、五九右）、法演禪師語錄（大正藏四八ノ六五七A）、大燈錄（頌古）

註 大燈國師百二十則の目次では、雪竇五帝三皇として「雪竇云五帝三皇是何物」の語を別則の如く扱っているが、この書の内容では「馬祖日面月面」の中に含めている。三江の大燈百二十則でも勿論別則とはしていない。

六九、女子出定

經云、文殊是七佛師、爲甚出女子定不得、盲明是下方聲聞、爲甚出得女子定

〔出典〕無門闢第四十二則、景德傳燈錄卷二十七（諸方雜舉徵拈代別語）、虛堂錄卷二（寶林語錄）、同卷五（頌古）、大惠頌古第七則（縮藏騰五ノ五七）

七〇、清定行者

經云、清淨行者不入涅槃、破戒比丘不墮地獄

〔出典〕景德傳燈錄卷十七（洞山道全の章）

七一、鐵磨到瀉山

劉鐵磨到瀉山、瀉山云、老牯牛汝來也、磨云、來日臺山大會齋和尚還去麼、山放身臥、磨便出去

〔出典〕碧巖集第二十四則、虛堂錄卷二（寶林語錄）、同卷五（頌古）

七二、僧問百丈

僧問百丈、如何是奇特事、丈云、獨坐大雄峯、僧禮拜、丈便打

〔出典〕碧巖集第二十六則、百丈錄（縮藏騰四ノ五九左）、虛堂錄卷二（寶林語錄）、大應錄（崇福寺語錄）、大燈錄（大德寺後錄）

七三、智門蓮華

僧問智門、蓮華未出水時如何、門云、蓮華、僧云、出水後如何、門云、荷葉

〔出典〕碧巖集第二十一則、大應錄（崇福寺語錄）、大燈錄（大德寺後錄）

七四、保福遊山

保福長慶遊山次、福以手指云、這裡便是妙峰頂、慶云、是則是可惜許、雪竇着語云、今日共這漢遊山圖箇什麼、復云、百千年後不道無只是少、後學似鏡清、清云、若不是孫公便是見髑髏遍野

〔出典〕碧巖集第二十三則、景德傳燈錄卷十八（長慶の章）、大燈錄（頌古）

七五、雪峰鼈鼻蛇

雪峰示衆云、南山有一條鼈鼻蛇、汝等諸人切須好看、長慶云、今日堂中大人衷身失命、僧舉似玄沙、沙云、須是稜兒始得、雖然如是我卽不恁麼、僧云、和尚作麼生、沙云、用南山作什麼、雲門以拄杖擲向雪峰面前作怖勢

〔出典〕碧巖集第二十二則、景德傳燈錄卷十八（長慶の章）

七六、龍牙翠微

龍牙問翠微、如何是祖師西來意、微云、與我過禪板來、龍牙過禪板與翠微、微接得便打、牙云、打卽任打、要且無祖師西來意、牙又問臨濟、如何是祖師西來意、濟云、與我過蒲團來、牙取蒲團過與臨濟、濟接得便打、牙云、打卽任打、要且無祖師西來意

〔出典〕碧巖集第二十則、景德傳燈錄卷十七（龍牙の章）、虛堂錄卷四（普說）、大燈錄（參詳語要）、五燈會元卷十三（龍牙の章）

七七、蓮花拄杖

蓮華峰庵主拈拄杖示衆云、古人到這裏爲甚不肯住、衆無語、自代云、爲佗途路不得力、復云、畢竟如何、又自代云、畢

竟如何、又自代云、柳標橫擔不顧人、直入千峰萬峰去

(出典) 碧巖集第二十五則、宏智廣錄第三(大正藏四七ノ二八B)

七八、雲門體露

僧問雲門、樹凋葉落時如何、門云、體露金風

(出典) 碧巖集第二十七則、雲門廣錄卷上(對機)

七九、南泉參涅槃

南泉參百丈涅槃和尚、丈云、從上諸聖還有不爲人說底法麼、泉云、有、丈云、作麼生是不爲人說底法、泉云、不是心不是佛不是物、丈云、說了也、泉云、某甲只恁麼、和尚作麼生、丈云、我又不是大善知識、爭知有說不說、泉云、某甲不會、丈云、我太慙爲爾說了也

(出典) 碧巖集第二十八則、景德傳燈錄卷六(百丈山惟政の章)、大燈錄(頌古)

八〇、趙州蘿蔔

僧問趙州、承聞和尚親見南泉是否、州云、鎮州出大蘿蔔頭

(出典) 碧巖集第三十則、趙州錄(縮藏臘五ノ一〇左)、汾陽錄(大正藏四七ノ六一〇C)、大應錄(興德寺語錄、建長寺語錄)

八一、雲門 普

僧問雲門、如何是正法眼、門云、普

(出典) 碧巖集第五則ノ類別、雲門廣錄卷上(對機)

八二、雲門 露

僧問雲門、殺父殺母懺悔佛前、殺佛殺祖向甚處懺悔、門云、露

(出典) 雲門廣錄卷上(對機)、碧巖集第六則ノ評、虛堂錄卷八(淨慈後錄)、五燈會元十五(雲門の章)

八三、那吒折骨

那吒太子折肉還母折骨還父、然後現本身爲父母說法

(出典) 景德傳燈錄卷十五(投子山大同の章)

八四、筵籬木杓

僧問古德、如何是有漏、德云、筵籬、如何是無漏、德云、木杓

(出典) 景德傳燈錄卷十五(令邊の章)、禪宗頌古聯珠通集第二十五(縮藏騰三ノ四一右)

八五、花藥欄

僧問雲門、如何是清淨法身、門云、花藥欄、進云乃恁麼去時如何、門云、金毛獅子

(出典) 碧巖集第三十九則、雲門廣錄卷上(對機)、宏智廣錄卷三(大正藏四八ノ三〇B)、大應錄(崇福寺語錄)、大燈錄

(大德寺語錄、大德寺後錄)

八六、慈明一畝三蛇

僧問慈明、如何是祖師西來意、明云、一畝之地三蛇九鼠

(出典) 慈明禪師語錄(縮藏騰五ノ初右)、禪宗頌古聯珠通集第三十八(縮藏騰三ノ一〇四右)、虛堂錄卷二(寶林語錄)、

大燈錄(大德寺語錄)

八七、雲門塵々三昧

僧問雲門、如何是塵々三昧、門云、鉢裡飯桶裡水

(出典) 碧巖集第五十則、雲門廣錄卷上(對機)、圓悟錄(大正藏四七ノ七三六B)

八八、洞山麻三斤

僧問洞山、如何是佛、山云、麻三斤

〔出典〕碧巖集第十二則、無門關第十八則、洞山初禪師語錄（縮藏臘六ノ三五右）、楊岐方會和尚語錄（大正藏四七ノ六四五C）、大應錄（法語）、大燈錄（頌古）

八九、雲門屎橛

僧問雲門、如何是佛、門云、乾屎橛

〔出典〕雲門廣錄卷上（對機）、無門關第二十一則、大惠頌古第六十八則

九〇、趙州三轉語

趙州云、木佛不渡火、泥佛不渡水、金佛不渡爐、眞佛屋裡坐

〔出典〕碧巖集第九十六則、趙州錄（縮藏臘五ノ一五右）、大惠頌古第三十三則

九一、子胡牌

子胡牌云、子胡有一狗、上取人頭中取人腰下取脚、擬議便哀身失命

〔出典〕碧巖集第二十二則ノ類則、衢州子湖山第一代神力禪師語錄（縮藏臘五ノ八左）、禪宗頌古聯珠通集第十六（縮藏臘三ノ四右）

九二、雪峰毬毬

雪峰毬毬、一日逢玄沙三毬同毬、沙以坐具作斬勢、雪峰肯之

〔出典〕碧巖集第四十四則ノ類則、雲門廣錄卷中（室中語要）、圓悟佛果禪師語錄卷三（大正藏四七ノ七二七C）、大應錄（法語）、大燈錄（大德寺語錄）

九三、僧問慈明佛

僧問慈明、如何是佛、明云、蓮華棒足

(出典) 慈明禪師語錄(縮藏臘五ノ一左)

九四、禾粟豆

僧問古德、如何是三宝、云、禾粟豆

(出典) 景德傳燈錄卷七(三角山總印禪師の章)

註 景德傳燈錄卷七(總印の章)には「僧問如何是三宝、師曰禾。麦。豆。曰學人不曾、師曰大衆欣然奉持」とあり、禾麦豆となつてゐる。この大燈國師百二十則では禾粟豆と改められている。しかしこれは大燈が改めたのではなく、すでに聖一門下の痴兀大慧の枯木集には禾粟豆となつてゐる。

九五、法眼丙丁童子

僧問法眼、如何是佛、眼云、丙丁童子來求火、

(出典) 碧巖集第七則ノ類則、虛堂錄卷四(普説)

九六、雲門對一説

僧問雲門、如何是一代時教、門云、對一説

(出典) 碧巖集第十四則、雲門廣錄卷上(對機)

九七、倒一説

僧問雲門、不是目前機、又非目前事時如何、門云、倒一説

(出典) 碧巖集第十五則、雲門廣錄卷上(對機)

九八、雲門胡餅

僧問雲門、如何是超佛越祖之談、門云、胡餅

〔出典〕碧巖集第七十七則、雲門廣錄卷上（對機）、虛堂錄卷四（普說）、大燈錄（大德寺語錄、頌古）

九九、林際四料簡

林際四料簡、奪人不奪境、奪境不奪人、人境兩俱奪、人境俱不奪

〔出典〕臨濟錄、楊岐方會和尚語錄（大正藏四七ノ六四四B）、虛堂錄卷四（普說）、大應錄（崇福寺語錄、建長寺語錄）

一〇〇、四賓主

林際四賓主、賓中主、主中賓、賓中賓、主中主

〔出典〕臨濟錄、楊岐方會和尚語錄（大正藏四七ノ六四四C）、虛堂錄卷四（普說）

一〇一、三玄

三玄、體中玄、句中玄、玄中玄

〔出典〕臨濟錄、楊岐方會和尚語錄（大正藏四七ノ六四四A）、虛堂錄卷四（普說）

一〇二、三要

三要、第一要、第二要、第三要

〔出典〕前則と同じ

一〇三、雲門三句

雲門三句、函蓋乾坤句、截斷衆流句、隨波逐浪句

〔出典〕雲門廣錄卷下（頌雲門三句語—德山緣密述—）、景德傳燈錄卷二十二（德山緣密の章）、五燈會元卷十五（德山緣密

の章

註 この雲門三句の語は葛藤集(上)もこの語を雲門三句として出しているものであるが、これは景德傳燈錄卷二十二德山緣密の章にある語で、雲門の嗣德山緣密の語である。雲門廣錄卷中垂示代語には「函蓋乾坤、目機鉅兩、不涉世緣、作麼生承當、代云、一鐵破三關」とある。しかし雲門廣錄卷下の末尾に收める門人德山緣密が作る「頌雲門三句語」には「函蓋乾坤、截斷衆流、隨波逐浪」と拈弄されている。

一〇四、雲門鑑嘆

雲門鑑嘆

(出典) 雲門廣錄卷上(封機)、碧巖集第六則ノ類則、大惠頌古(大正藏四七ノ八五五A)、慈明錄(縮藏臘五ノ二右)

一〇五、馬祖陞座

馬祖陞座、百丈捲席

(出典) 百丈錄(縮藏臘四ノ五九左)、禪宗頌古聯珠通集第九(縮藏臘三ノ七五左)、景德傳燈錄卷六(馬祖の章)、汾陽錄

(大正藏四七ノ六〇八B)、明覺錄(大正藏四七ノ六八〇A、六八三A)、大應錄(興德寺語錄・福寺語錄)、大燈錄(參詳語要)

一〇六、大隋一龜

僧見一龜問大隋、一切衆生皮裏骨、者箇衆生爲甚骨裏皮、隋脫草鞋蓋龜背上

(出典) 大隋開山神照禪師語錄(縮藏臘六ノ二二右)、禪宗頌古聯珠通集第二十二(縮藏臘三ノ三〇左)

一〇七、麻谷持錫

麻谷持錫到章敬、遶禪床三匝、振錫一下卓然而立、敬云、是々、雪竇着語云、錯、麻谷又到南泉遶禪床三匝振錫一下、卓然而立、泉云、不是々々、雪竇着語云、錯、谷當時道章敬云是、和尚爲什麼道不是、泉云、章敬卽是々爾不是、此是風力所轉終成敗壞

〔出典〕碧巖集第三十一則、汾陽錄（大正藏四七ノ六〇八A）、景德傳燈錄卷七（章敬の章）

一〇八、大隋劫火

僧問大隋、劫火洞然大千俱壞、未審這箇壞不壞、隋云壞、僧云恁麼則隨佗去也、隋云隨佗去

(出典) 碧巖集第二十九則、大隋開山神照禪師語錄(縮藏騰六ノ二四右)、汾陽錄(大正藏四七ノ六〇八B)、楊岐錄(大正藏四七ノ六四四B)、景德傳燈錄卷十一(大隋の章)、禪宗頌古聯珠通集第二十二(縮藏騰三ノ三〇右)、大燈錄(頌古)

一〇九、慈明冬至

慈明冬至示此牌、
 〰〰〰
 〰〰〰
 〰〰〰
 凡諫拙、若人識得、不離四威儀中、首座一見云、和尚今晚放參

〔出典〕禪宗頌古聯珠通集第三十八（縮藏膽三ノ一〇三左）、虛堂錄卷六（別語）、大應錄（崇福寺語錄）

一一〇、香林證龜

香林因僧問、如何是室內一盞燈、林云、三人證龜作鼈

（出典）碧巖集第十七則（評唱）、禪宗頌古聯珠通集第三十五（縮藏曉三ノ九三左）、虛堂錄卷二（寶林語錄）、同卷三（育王語錄）、大應錄（崇福寺語錄）、大燈錄（大德寺語錄）

二二、古人頌風幡

法昌遇禪師頌、風幡心動話曰、不是風兮不是幡、黑花貓兒面門斑、夜行人徒貪明月、不覺和衣渡水寒

〔出典〕禪宗頌古聯珠通集第七（縮藏體二ノ六八右）

註「不是風兮」の四字は清庵宗胃が傳寫するとき落したと思われるので、頌古聯珠通集によつて補つた。また頌古聯珠通集では頌の第三句が「夜行人只貪明月」となっている。のちの葛藤集の「六祖風幡」と關連はあつても、異つた則である。そしてこの頌を作つた法昌倚遇禪師は雲門四傳の禪僧で、雲門宗の法系に屬し、續傳燈錄卷五（大正藏五一ノ四九六C）にその傳記、機緣語

句が載っているが、この頌は誌されていない。

一一二、世尊涅槃

世尊臨入涅槃、自撫紫磨金色身云、爾等諸人見我金色身、我若言滅度非我弟子、若言不滅非我弟子、後迦葉到時、○出双跌

(出典) 虛堂錄卷八(淨慈後錄佛涅槃上堂)、大燈錄(大德寺語錄)、禪宗頌古聯珠通集第二(縮藏曉二ノ五〇右)

一一三、仰山五老峰

仰山因問僧、近離甚處、僧云廬山、山云曾到五老峰麼、僧云曾不到、山云闍梨曾不遊山

(出典) 碧巖集第三十四則、禪宗頌古聯珠通集第二十五(縮藏曉三ノ四四左)、大燈錄大(德寺語錄、大德寺後錄、頌古)

一一四、趙州二時

趙州云、我在南方三十年、除粥飯二時是雜用心

(出典) 趙州錄(縮藏曉五ノ一〇左)、禪宗頌古聯珠通集第二〇(縮藏曉三ノ二〇左)

一一五、門竿倒却

阿難問迦葉、世尊傳金襴袈裟外別傳何法、迦葉召云、阿難、難應諾、迦葉云倒却門前刹竿着、阿難便悟去

(出典) 無門關第二十二則、法演禪師語錄(大正藏四七ノ六五八A)、圓悟錄卷四(大正藏四七ノ七三二C)、禪宗頌古聯珠通集第六(縮藏曉二ノ六三右)

一一六、兩處不答

長生問靈雲云、混沌未分時如何、靈雲云、露柱懷胎、生云、分後如何、雲云、如片雲點大清、生云、未審大清還受點也無、雲不答、生云、恁麼則含生不、雲亦不答、生云、直得純清絕點時如何、雲云、猶是眞常流注、生云、如何是眞常流

注、似鏡長明、生云、向上還有事也無、雲云有、生云、什麼生是向上事、雲云、打破鏡來與爾相見、

〔出典〕景德傳燈錄卷十一（靈雲の章）、虛堂錄卷三（育王語錄）、大應錄（崇福寺語錄）

一一七、睦州西峯

睦州和尚因西峰相訪、置茶果道話次、州云、長今夏在何處居、峯云、蘭溪、州云、多少衆、峯云、七十餘、州云、時中將何示徒、峰拈起柑子、州云、着甚死急

〔出典〕景德傳燈錄卷十二（睦州の章）、虛堂錄卷九（徑山後錄）

註 目次には「趙州西峯」とあるが、内容は睦州と西峯との問答である。それでいまは「睦州西峯」と改めた。三江の大燈百二十則の方は「西峰拈起柑子」とある。

一一八、死蛇籃子

古人云、路逢死蛇不打殺、無底籃子盛將歸

〔出典〕景德傳燈錄卷二十（佛日の章）、虛堂錄卷五（頌古）、禪宗頌古聯珠通集第二十四（縮藏臘三ノ四〇左）

一一九、夜明符天曉

古人云、手把夜明符、幾箇知天曉

〔出典〕景德傳燈錄卷二十（佛日の章）、禪宗頌古聯珠通集第二十四（縮藏臘三ノ四〇左）

一二〇、臺山婆子

臺山路上有一婆子、凡有僧問、臺山路向何處去、婆云、驀直去、僧纔行婆云、好箇師僧乃與麼去、趙州聞云、我去勘箇婆子、州乃問臺山路向何處去、婆云、驀直去、州纔行、婆云、好箇師僧便與麼去、州歸院謂衆云、婆子被我勘破了也

〔出典〕無門關第三十一則、趙州錄（縮藏臘五ノ一八左）、汾陽錄（大正藏四七ノ六一〇B）、大應錄（崇福寺語錄）、大燈錄

(拈古)

(外) 馬師翫月

馬大師翫月次、師云、正當恁麼時如何、百丈云、正好供養、西堂云、正好修行、南泉驟步便行、師云經入藏禪歸海、唯
有普願獨超物外

(出典) 馬祖錄(縮藏隆四ノ五九右)、虛堂錄卷二(寶林語錄)、同卷八(續註)、同卷九(徑山後錄)、大燈錄(大德寺語錄)

(外) 大川蜘蛛頌

一糸掛得^注虛空、百億糸頭殺氣生、上下四維羅織了、一無漏網話方行

(出典) 大川普濟禪師語錄ノ偈頌(統藏第一輯第二編第二十六套ノ二)

註 大川普濟禪師語錄の第一句は一糸掛得^注虛空^注とある。また百二十則原本の第四句に「一無漏網話」とあるが、いまは大川錄により網を網に改めた。

○ 宗峰三轉語

朝結眉夕交肩我何似生、露柱盡日往來我因甚不動、若透得箇兩轉語、一生參學了畢

(出典) 大燈國師行狀

三

このように大燈國師百二十則の出據や拈提された語錄を擧げてみた。しかし厖大な數多くの禪錄のことであるから、これらの則が他の禪錄にて拈提されているであろうことはいうまでもないが、各則の所依となつたと思われるものを探ぐつてみれば、まず臨濟錄をはじめとして、馬祖錄、南泉錄、百丈錄、黃檗錄、趙州錄、雲門廣錄、洞山錄、大隋錄、子胡山神力禪師語錄、洞山初禪師語錄、慈明錄、黃龍錄、楊岐錄、明覺錄、五祖錄(法演禪師語錄)、圓悟錄、碧巖集、

無門關、宏智廣錄、大惠頌古、大川普濟禪師語錄、虛堂錄、大應錄、禪宗頌古聯珠通集、景德傳燈錄、五燈會元等に見出される。それで大燈國師百二十則是これらの禪錄が所依となつたと思われるが、いまこれらの禪錄の中に見出される則を挙げてみれば次の如くである。

- (1) 臨濟錄Ⅱ黃檗打臨濟、赤肉團話、論劫在途、孤峯出身、傳語德山、堂僧看經、林際四料簡、四賓主、三玄、三要
- (2) 馬祖錄Ⅱ萬法不侶、馬祖日面月面、馬師翫月
- (3) 南泉錄Ⅱ南泉住庵
- (4) 百丈錄Ⅱ百丈再參、僧問百丈、馬祖陞堂
- (5) 黃檗錄Ⅱ百丈再參
- (6) 趙州錄Ⅱ狗子無佛性、一物不將來、至道無難、水拈牛話、庭前柏樹、趙州因僧問喫粥了、僧問趙州四門、南泉貓兒、趙州蘿蔔、趙州三轉語、趙州二時、臺山婆子
- (7) 雲門廣錄Ⅱ翠巖眉毛、死人無數、乾峯法身、至道無難、火焰轉法輪、良遂參麻谷、趙州因僧問喫粥了、雲門體露、雲門普、雲門露、花藥欄、雲門塵々三昧、雲門屎橛、雪峰毘毘、雲門對一說、倒一說、雲門胡餅、雲門三句、雲門鑑咦
- (8) 洞山錄Ⅱ洞山寒暑到來
- (9) 汾陽錄Ⅱ香嚴樹上、靈雲桃花、庭前柏樹、南泉貓兒、趙州蘿蔔、馬祖陞堂、麻谷持錫、大隋劫火、臺山婆子
- (10) 大隋錄Ⅱ大隋一龜、大隋劫火
- (11) 子胡山神力禪師語錄Ⅱ子胡牌
- (12) 洞山初禪師語錄Ⅱ洞山麻三斤
- (13) 慈明錄Ⅱ慈明一畝三蛇、僧問慈明佛、雲門鑑咦

(14) 黃龍錄||死人無數、一物不將來

(15) 楊岐錄||庭前柏樹、楊岐薄福、洞山麻三斤、林際四料簡、四寶主、三玄、三要、大隋劫火

(16) 明覺錄||香巖樹上、不見一法、湖南報慈、赤肉團話、雪寶示衆、雪寶二龍、德山小參不答話、馬祖陞堂

(17) 五祖錄||死人無數、狗子無佛性、萬法不侶、出不出話、六祖因僧問、肅宗問忠、馬祖日面月面、門竿倒却

(18) 圓悟錄||雲門塵々三昧、雪峰輓毯、門竿倒却

(19) 碧巖集||翠巖眉毛、好雲片々、萬法不侶、黃巢後劍、金牛喫飯、至道無難、定擒欽山、陞座白槌、洞山寒暑到來、僧問趙州四門、法眼慧超、香林坐久、肅宗問忠、俱胝一指、南泉貓兒、趙州草鞋、梁武達磨、馬祖日面月面、鐵磨到馮山、僧問百丈、智門蓮花、保福遊山、雪峰鼈鼻蛇、龍牙翠微、蓮花拄杖、雲門體露、南泉參涅槃、趙州蘿蔔、雲門普、雲門露、花藥欄、雲門塵々三昧、洞山麻三斤、趙州三轉語、子胡牌、雪峰輓毯、法眼丙丁童子、雲門對一說、倒一說、雲門胡餅、雲門鑑咦、麻谷持錫、大隋劫火、香林證龜、仰山五老峰

(20) 無門關||牛窓樺話、香巖樹上、狗子無佛性、湖南報慈、松源三轉(大力量人)、黃龍三關、兜率三語、庭前柏樹、拈花微笑、趙州因僧問喫粥了、德山托鉢、南泉貓兒、女子出定、洞山麻三斤、雲門屎橛、門竿倒却、臺山婆子

(21) 宏智廣錄||香巖樹上、乾峰法身、不見一法、一物不將來、法燈示衆、蓮華拄杖、花藥欄

(22) 大慧頌古||狗子無佛性、萬法不侶、不見一法、靈雲桃花、德山托鉢、女子出定、雲門屎橛、趙州三轉語、雲門鑑咦

(23) 大川普濟禪師語錄||大川蜘蛛頌

(24) 虛堂錄||翠岩眉毛、死人無數、乾峰法身、有句無句、好雪片々、萬法不侶、不見一法、會如來禪、靈雲桃花、黃巢後劍、賴備不知、金牛喫飯、一物不將來、湖南報慈、松源三轉、黃龍三關、火焰轉法輪、黃檗打臨濟、赤肉團話、定

擒欽山、論劫在途、傳語德山、水牯牛話、龍不見柱、萬頃荒田、撮退果卓、黃昏脫襪、庭前柏樹、虛堂拄杖、是凡是聖、百丈再參、出不出話、寒山茄串、陞座白槌、拈花微笑、堂僧看經、良遂參谷、丹霞燒佛、楊岐問慈明、雪竇示衆、六祖因僧問、法燈示衆、藥山久不上堂、南泉住庵、洞山寒暑到來、楊岐薄福、德山托鉢、肅宗問忠、德山小參不答話、南泉貓兒、梁武達磨、女子出定、鐵磨到瀉山、僧問百丈、龍牙翠微、雲門露、慈明一畝三蛇、法眼丙丁童子、雲門胡餅、林際四料簡、四寶主、三玄、三要、慈明冬至、香林證龜、世尊涅槃、兩處不答、睦州西峰、死蛇籃子、馬師翫月

(26) 大應錄 翠岩眉毛、乾峰法身、松源三轉、黃龍三關、兜率三語、赤肉團話、庭前柏樹、拈花微笑、洞山寒暑到來、香林坐久、俱胝一指、梁武達磨、僧問百丈、智門蓮花、龍牙翠微、趙州蘿蔔、花藥欄、洞山麻三斤、雪峰覬毬、林際四料簡、馬祖陞堂、慈明冬至、香林證龜、兩處不答、臺山婆子

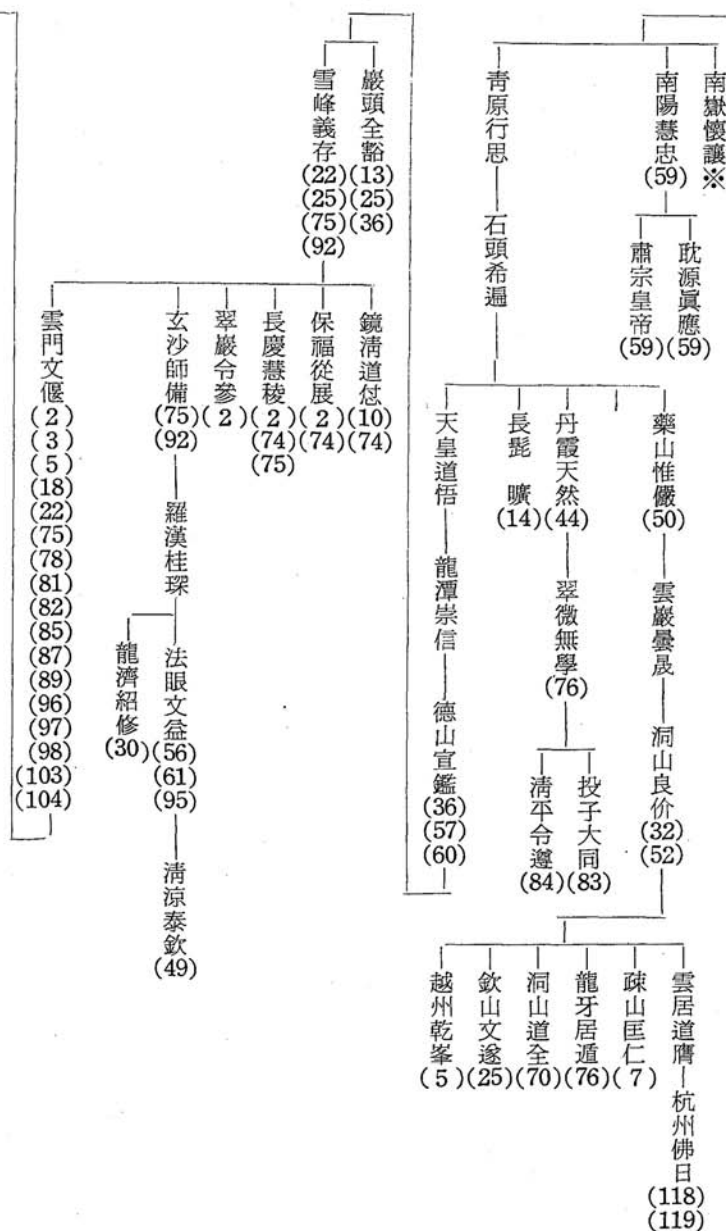
なお禪宗頌古聯珠通集、景德傳燈錄には數多くの出據を見出すのであるが、右に挙げた語錄に出ていないものを挙げれば

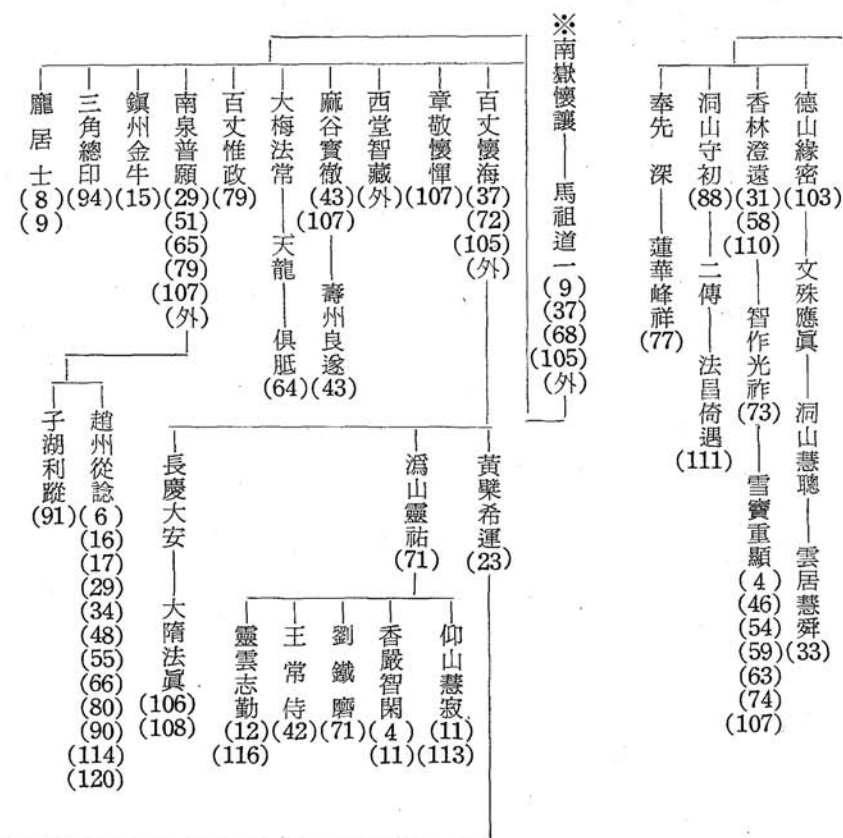
- (26) 禪宗頌古聯珠通集 竺籬木杓、古人頌風幡、夜明符天曉
- (27) 景德傳燈錄 清淨行者、那吒折骨、禾粟豆、等がある。

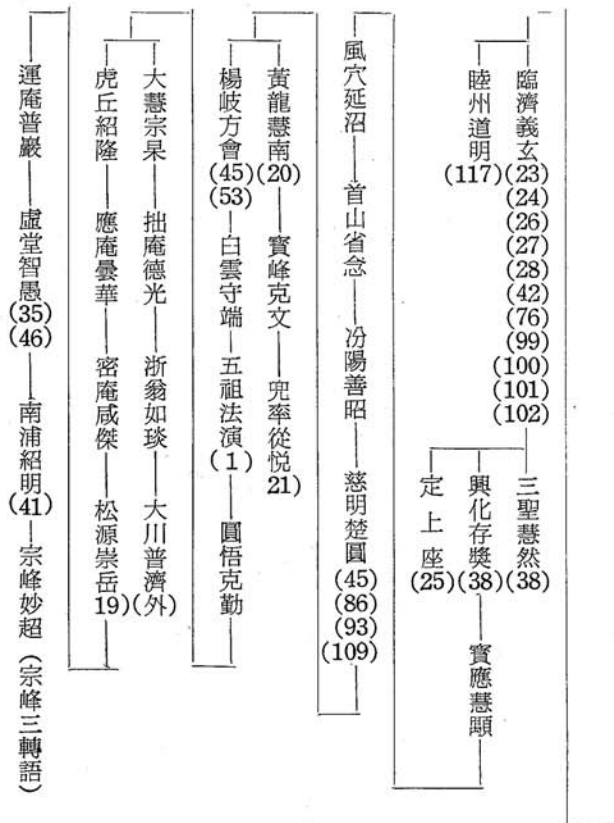
またこの百二十則に出ずる佛祖の名號を系譜に示してみれば次の如くである。

大燈國師百二十則の佛祖系譜 (數字は則の番号)

釋迦牟尼世尊 (40) (112) 摩訶迦葉 (115) 阿難 (115) …… 菩提達磨 (67) 神光慧可 鑑智僧璨 破頭道信 黃梅弘忍 大鑑慧能 (47)







註

この系譜は大燈國師百二十則中に出ずる佛祖の名號であるが、祖師名の出ない則はその機縁語句を拈出した祖師を以て當てた。清平令遜 (84 策籬木杓)、三角總印 (84 禾粟豆) の如きがそれである。また 89 那吒折骨 の如きも、いまはそれを拈弄した授子大同を以て當てた。なおこの大燈國師百二十則はもともと百二十則で、番外やのちに附加されたものでないことはさきに論じたところであるが、いまは清庵宗意が傳寫した則番に従つた。

まず右のような禪錄の出典分類や系譜において考えられることは、禪宗史が一大時期を劃して展開し、機用に重點が

おかれた馬祖、百丈や石頭以後のものが大部分を占めていることである。佛祖の名號からいえば、世尊に關するものを始め迦葉・阿難・達磨・六祖等の祖師や寒山子・那吒太子等があるが、馬祖・百丈や石頭下以後の祖師であり、出典に表われた機緣語句はすべて唐宋のもので、これらが虚堂によつて取捨されたものを大應が承け繼ぎ、さらに大燈に傳えられて宗峰三轉語が附加されている。虚堂錄においては、さきにあげるように拈提されている則は百二十則の中七十則を數えるのである。虚堂錄には記錄されていなくても、學人接化のために用いられた他の則はかなり多くあつたと思われる。また拈花微笑の話において先師大應の機緣語句を一則としていることは、まことにゆかしいものがある。

そしてこの百二十則となつた佛祖の機緣語句は大燈が所屬する臨濟の系統のみでなく、南嶽、青原の系統を問わず、五家發生以後においても自由に各派の祖師の機緣語句を取入れて扱われている。六祖の大鑑慧能（六祖因僧問）のもとには南嶽・青原の二大系を分出して發展せしめたのであるが、また南陽慧忠の則がとりあげられている。慧忠國師と肅宗皇帝との問答である「肅宗問忠」の則である。青原系に屬するものとしては、石頭門下の葉山惟儼（葉山久不上堂）、丹霞天然（丹霞燒佛）、長髭曠（曠曠不知）等がある。丹霞の弟子翠微無学（龍牙翠微）やその門下投子大同（那吒折骨）、清平令遵（宗鑑本杓）があり、天皇道悟の系統においては德山宣鑑（是凡是聖、德山托鉢、德山小參不答語）やその門下巖頭全豁（黄巢後劍、定擒欽山、是凡是聖）、雪峰義存（火焰轉法輪、定擒欽山、雪峰龜鼻蛇、雪峰輕毬）にいたつては多く機緣語句がとりあげられている。ことに雪峰下の鏡清道愆（不見一法、保福遊山）、保福從展（翠巖眉毛、保福遊山）、長慶慧稜（翠巖眉毛、保福遊山、雪峰龜鼻蛇）、翠巖令參（翠巖眉毛）、玄沙師備（雪峰龜鼻蛇、雪峰輕毬）、龍濟紹修（龍不見柱、雲門文偃等の機緣語句が出てゐる。雲門に關しては後述するが、雲門に關する則は非常に多い。

南嶽系の祖師では馬祖竝に馬祖下の禪者に關する則が多い。馬祖道一に關するものとしては萬法不侶、百丈再參、馬祖日面月面、馬祖陞堂等の則がある。馬祖は一百餘人の善知識を打出したといわれるが、その中この百二十則にとりあ

げられている門下は百丈懷海（百丈再參、僧問百丈、馬祖陸堂、馬師旣月）、章敬懷惲（麻谷持錫）、西堂智藏（馬師旣月）、麻谷寶徹（良遂參麻谷、麻谷持錫）、百丈惟政（南泉參涅槃）、南泉普願（水牯牛牯、南泉住庵、南泉猫兒、南泉參涅槃、麻谷持錫、馬師旣月）、鎮州金牛（金牛喫飯）、三角總印（禾粟豆）、龐居士（好雪片々、萬法不侶）の九人である。馬祖下の法孫に關するものには百丈懷海の嗣黃檗希運（黃檗打臨濟）、潯山靈祐（鐵磨到潯山）や、長慶大安門下の大隋法眞（大隋一龜、大隋劫火）があり、また黃檗門下の睦州道明（睦州西峯）がある。そして壽州良遂（良遂參麻谷）、俱胝（俱胝一指）等があり、とくに南泉の弟子趙州從諗（狗子無佛性、一物不將來、至道無難、水牯牛牯、庭前柏樹、趙州因僧問喫粥了、僧問趙州四門、趙州草鞋趙州蘿蔔、趙州三轉語、趙州二時、臺山婆子）に關するものが多く、また南泉下の子湖利蹤（子胡牌）の則がある。

禪は馬祖、石頭の出ずるに及んで江西、湖南の地を中心として全盛を極めたが、唐末から五代にかけて五家に分岐した。いわゆる禪宗五家と稱する滄仰、臨濟、雲門、曹洞、法眼の五宗これである。この中滄仰、臨濟は南嶽系から分岐し、雲門、曹洞、法眼の三宗は青原系からそれぞれ分派したとされる。勿論この分派は他の佛教諸宗が別立したようにに教判によつて教義に對する見解を異にして分れたのではなく、同一味の禪ではあつても、祖師の性格により接化の手段を異にする家風であつた。そして當時の禪界は自由に各派の祖師に參禪し、また宗派を超えて他の機緣語句をとりあげ學徒に示して提撕した。

いまこの大燈國師百二十則においても、五宗各家の祖師の機緣語句が則としてとりあげられている。まず南嶽系の滄仰宗からは、この宗祖の滄山靈祐（鐵磨到潯山）をはじめその門下仰山慧寂（會如來禪、仰山五老峰）、香嚴智閑（香嚴上樹）、劉鐵磨（鐵磨到潯山）、王常侍（堂僧看經）、靈雲志勤（靈雲桃花、兩處不答）等の機緣語句が則としてとりあげられている。いうまでもなく滄仰宗の家風は滄山、仰山の師資によつて形成されたもので、五祖法演は「斷碑古路に横わる」と評したが、精練された氣品のある家風を白隠は「滄仰公家」と評した。この滄仰禪の精髓を、右のような祖師の機緣

語句によつてとりいれ、大燈禪は培われている。

臨濟宗系統の祖師からは、宗祖臨濟義玄（黃檗打臨濟、赤肉團語、論劫在途、傳語德山、堂僧看經、林際四料簡、四賓主、三玄三要）をはじめ、その門下三聖慧然（出不出語）、興化存獎（出不出語）、定上座（定擒欽山）やのち宋代に祖道を大いに發揚した慈明楚圓（楊岐問慈明・慈明一畝三蛇・僧問慈明佛・慈明冬至）の機緣語句が則としてとりあげられている。慈明の門下に黃龍慧南、楊岐方會の二傑があり、臨濟宗はここにおいて黃龍、楊岐の二派に分岐したのであるが、黃龍派のものとしては慧南（黃龍三關）と兜率從悅（兜率三語）の二人であり、楊岐派は方會（楊岐問慈明・楊岐薄福）、五祖法演（牛窓樞語）、大川普濟（大川蜘蛛頌）、松源崇岳（松源三轉）、虛堂智愚（虛堂拄杖・雪竇示衆）等の機緣語句が則としてとりあげられている。臨濟系統の祖師に關するものが比較的少いのであるが、しかし大燈禪の根幹をなすものは、五逆聞雷といわれ臨濟將軍と評せられる臨濟の大機にあらねばならない。

また曹洞宗の祖師からは、洞山良价（撥退果卓・洞山寒暑到來）をはじめ、その門下疎山匡仁（有句無句）、龍牙居遁（龍牙翠微）、洞山道全（清淨行者）、欽山文遂（定擒欽山）、越州乾峯（乾峯法身）及び雲居道膺の門下杭州佛日（死蛇鑿子、夜明符天曉）等の機緣語句がとりあげられており、法眼宗に關するものは法眼文益（法眼慧超、法眼拈云、法眼丙丁童子）とその嗣清涼泰欽（法燈示衆）二師の機緣語句である。

五家の中最も多く百二十則にとりあげられているのは雲門宗である。雲門文偃（翠巖眉毛、死人無數、乾峰法身、湖南報慈、火焰轉法輪、雪峰龍鼻蛇、雲門體露、雲門普、雲門露、花藥欄、雲門座々三昧、雲門屎橛、雲門對一說、倒一說、雲門胡餅、雲門鑑嘆）をはじめ德山緣密（雲門三句）、香林澄遠（萬頃荒田、香林坐久、香林證龜）、洞山守初（洞山麻三斤）等の門下や雲居慧舜（黃昏脫屣）、智門光祚（智門蓮花）、雪竇重顯（香嚴上樹、雪竇示衆、雪竇二龍、雪竇云二老宿、保福遊山、麻谷持錫）、法昌倚遇（古人頌風幡）、蓮華峰祥（蓮花拄杖）等の機緣語句が多いのは大燈禪の性格を裏づけるものであり、雲門の紅旗閃爍と

いゝまた雲門天子といわれる高貴な家風が、機峰峻嚴な臨濟の家風と相俟つて大燈禪を形成している。

四

またさきに挙げた出典からいつて、臨濟錄を出典とするものは十九則を數えたのであるが、とくに注目されるのは趙州錄と雲門廣錄である。趙州錄に十二則、雲門廣錄にいたつては十九則を數えられることは大燈禪の特色を知るのである。臨濟禪は楊岐派の五祖法演にいたつて雲門の知見を取入れたといわれるが、いまこの大燈國師百二十則の中にある雲門の死人無數の則が法演禪師語錄の中に拈提されている。この五祖法演の嗣圖悟克勤は碧巖集を撰述したのであるが周知の如く碧巖集は雲門宗の雪竇重顯の頌古一百則に垂示、本則、著語、評唱等を附したものである。まさに臨濟の大機に雲門の知見を加味した家風を形成するにいたつた。この碧巖集の中に「大燈國師百二十則」の則が四十五則數えられる。尤もこの中に含まれる「南泉猫兒」と「趙州草鞋」とは無門關では「南泉斬猫」として一則となつていたのであるが、「大燈國師百二十則」が碧巖集と同じように二則としていることは碧巖集に重點を置いていふものと思われる。わが國においては碧巖集は道元によつて請來され、のち元庵普寧、一山一寧、南浦紹明（大應）等によつてもたらされた。花園院宸記には妙曉（月林道皎）、絕崖宗卓、宗峰妙超（大燈）等により進講されたことが誌されている。

大燈は碧巖集を尊重したように雲門宗系統の語錄や祖師の機緣語句を尊重した。とくに雲門廣錄と明覺禪師語錄すなわち雪竇錄が重要視されている。古來大德寺においては雲門廣錄を臨濟錄とともに雙翼の如くに尊重したといわれるし、そしてまた雪竇錄の各語句に大燈が著語したのが、大燈錄に收録される參詳語要である。大燈は先師大應の膝下で雲門の關字を透過し雲門大師の再來なりと稱讃されたが、大燈がのち宮廷の歸仰をうけて禪を擧揚するとき、「雲門天子」とか「紅旗閃爍」とかいわれる高貴な雲門の家風が相應しかつたからであらう。勿論大燈の機鋒の鋭さは天性の

性格と相俟つて臨濟の大機にあることはいうまでもない。しかも大燈は宮廷の歸仰を受けたからといつても、名利を求めて王者に嬋びるというようなことはなかつた。このことはしばしば論じたところであつたが、いまこの大燈國師百二十則の中にも「馬師日面月面」の則に「雪竇云、五帝三皇是何物」といつた語があり、大燈禪の獨脫性を思わしめる。この語はもと碧巖集第三則の語で、これがため碧巖集は大藏經の中に入藏することが出来なかつたといわれる。

なお古來わが國において、ことに應燈關の一派において、何故虛堂錄より碧巖集が廣く用いられたかということは禪宗史上における一問題である。應燈關としては當然虛堂錄に基礎をおかねばならないと思われるが、虛堂の頌古より雪竇の頌古に基礎をおく碧巖集がさかんに用いられたということは何か理由がなければならぬと思う。推察をめぐらしてまず考えられることは、翰林の才ありといわれた雪竇の美しい偈頌が圓悟によつてとりあげられ、臨濟の大機大用に精妙な雲門の知見言句がとりいれられた家風が形成され、やがて應燈關の先蹤をなす松源一派の禪となつていたということである。そして虛堂に嗣法した先師大應は歸朝に際してこの宗門第一の書と宣傳された碧巖集を請來し、さきによりやうに大應下の禪僧、ことに大燈が宮廷を中心として禪を舉揚するとき、この書を用いることが相應しかつたであらうし、もともと大燈は雲門の再來とまでいわれ、雲門の家風を具現し、また雲門宗の雪竇錄に著語して參詳語要を残したほどであるから、自然この碧巖集を重要視したものと思われる。さらにまた大燈國師百二十則において虛堂錄と碧巖錄との共通した則が拈提されているものに

翠巖眉毛、好雪片々、萬法不侶、黃巢後劍、金牛喫飯、湖南報慈、定擒欽山、陸座白槌、洞山寒暑到來、肅宗問忠、南泉猫兒、梁武達磨、鐵磨到瀉山、僧問百丈、龍牙翠微、雲門露、法眼丙丁童子、香林證龜

等があることも附言しておく。

また大燈國師百二十則の中には、無門關に關する則が十七則ある。無門關は南宋の無門慧開が學人説得のために禪道

修行の教育法を確立した書ともいべきもので、四十八則と附則として黃龍三關がある。この中十七則が大燈國師百二十則の中にとりあげられている。ここで注目すべきことは、無門關第一則の狗子無佛性話がこの百二十則の中にとりあげられていることである。この則はさきに出典をあげたように趙州錄に出ずる語で、のち五祖法演もその語錄の中に拈提しており、また大慧頌古第三十二則にもとりあげられている。しかし虛堂錄、大應錄といったものには見出すことが出来なかつた。ことに虛堂錄には百二十則の中、六十六則が拈提され極めて多くの則が扱われているが、この狗子無佛性の話は見出せない。今日この則は禪道入門者の則として知られているのであるが、大燈がこの則をとりあげて百二十則とし、學人接化の指導法を確立したことは、雲門禪の色彩の強いことともに注目すべきことである。のちこの則は葛藤集にも「趙州無字」としてとりあげられているが、いずれにしても大燈が數多くの古則公案を整理し、取捨選擇して百二十則となし、禪道修行の教育法を確立したことは、大燈禪の獨自性ともいべきものであらう。

さきにもうようにこの百二十則は大燈禪の根幹をなすもので、門下の徹翁義亨に傳つたものが「大燈國師百二十則」として大德寺に傳わり、たまたま清庵宗胃の筆寫したものが紹介されたのであるが、これと同時に關山慧玄に傳つたと思われるものが妙心寺の關山派に傳わり、南化玄興を経て三江紹益に傳つたものにも「大燈百二十則」があり、ともに内容は同じものであるから、この百二十則は大燈によつて確立された禪の根幹をなすものであつたと思われる。

註(1) 大燈國師法語「示萩原法皇之后」の章(禪門法語集續編所收)

(2) 大燈國師年譜 嘉元三年の條

(3) 同 正和二年の條

(4) 大燈百二十則(鈴木大拙博士解題)參照

(5) 同書 四頁

(6) 葛藤集下「德山行棒」

(7) 大燈百二十則(鈴木大拙博士解題)四頁

(8) 今津洪嶽教授所藏